

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	スペシャルニーズタイニートツ・モジラ（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和 7年 9月 4日		～ 令和 7年 9月 30日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○従業者評価実施期間	令和 7年 9月 4日		～ 令和 7年 9月 30日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 10月 7日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ご家族のご要望に対する柔軟な対応	・利用曜日の変更や受け入れ時間の調整など、ご家族のご要望に対し柔軟に対応しています。これにより、ご家族が安心して働き続けられるよう、就労支援にも力を入れています。	・土日受け入れやレスパイト支援に今後も積極的に取り組み、ご家族の負担軽減と、安定・継続した開所体制の構築を目指します。
2	・専門的な職員の配置	・配置基準に基づく人員体制に加え、医療機関・リハビリ機関・訪問看護ステーションなどと連携を図り、共通理解のもと、個々の状況に応じた支援を行っています。	・引き続き、主治医・薬局・教育機関などとも更に連携体制を強化し、より専門的かつ一貫した支援体制の充実を図ってまいります。

3	・家庭的な雰囲気と空間	・「我が家」のように安心して過ごせる空間づくりを大切に、きょうだい児やご家族も心地よく過ごせるよう、茶話会やイベントを通じて、いつでも立ち寄りやすく、相談しやすい雰囲気づくりを心がけています。	・ご本人やご家族との信頼関係を一層深めるため、心身の距離感にも配慮しながら、寄り添う姿勢を大切にしていまいます。
---	---	--	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域との交流の機会	・子育て支援センターや近隣の公園などへの外出は、体調等に配慮しながら適宜実施しています。ただし、本人の体調によっては計画の調整が難しい場合もあります。	・地域の情報を収集しながら、保護者の皆様のご意向にも耳を傾け、無理なく参加できる形で地域交流の機会を計画してまいります。また、こども園等で同年代の子どもたちとの関わりが増えるよう、さまざまな工夫を凝らしていきます。
2	・防災体制の周知	・事業所内ではマニュアルを整備していますが、保護者への十分な周知が行き届いておらず、特に避難時の医療機器の扱いや訓練については、継続的な取り組みが求められます。	・避難については、平時から地域との連携を深めるとともに、医療機器の取り扱いに関する勉強会を継続的に実施し、緊急時にも落ち着いて対応できる体制を整えていきます。
3	・情報共有の手段・方法について	・現在、医療機関や教育機関との連携にあたって、電話・メール・MCSなど使用ツールが統一されておらず、連絡手段にばらつきが見られます。	・災害時も想定し、使用する連絡ツールや手段を整理し、連絡体制の明確化を図ってまいります。